

## 【目次】

1. 講演会「渋沢栄一と鈴木文治」（井上潤渋沢史料館館長）を開催、11月6日！
2. 当館企画展「渋沢栄一・鈴木文治」のミニ見学会を実施、11月6日！
3. 労使関係研究協会が日銀本店・貨幣博物館の見学会を実施、11月22日！
4. 労働資料協2019年度（第34回）定期総会・研修会が開かれる、11月12～13日！
5. 「自由、公正、友愛」を掲げる民社協会の設立25周年記念の集いが開かれる、11月21日！
6. 連載「日本労働会館物語」第76回—詩人・加藤一夫とユニテリアン教会・惟一館—！

### 1. 講演会「渋沢栄一と鈴木文治」（井上潤渋沢史料館館長）を開催、11月6日！

友愛労働歴史館（徳田孝蔵館長）は労使関係研究協会と共催で11月6日（水）午後、公開講演会を開催しました。テーマは「渋沢栄一と鈴木文治」、講師は井上潤渋沢史料館館長、場所は友愛会館9階中ホール、参加者は約50名でした。



井上潤館長はレジュメ「渋沢栄一と鈴木文治・友愛会」に基づく報告を行いました。レジュメは「Ⅰ. 渋沢栄一 91年の生涯の中から読み取れるもの、Ⅱ. 渋沢栄一と鈴木文治・友愛会、Ⅲ. 労働問題に対する渋沢栄一の想い」の三部構成。これに基づき井上館長は、渋沢栄一の行動から見出せる信念や渋沢栄一と鈴木文治の出会い、そして渋沢栄一の労働問題に対する想いなどについて15時30分頃まで報告を行いました。その後、質疑・意見交換を行い、16時頃に閉会しました。

今回の講演会は朝日新聞で紹介されたこともあり、当館や労使研ゆかりの人たちの他、一般の方が十数名も参加されました。なお、井上館長の講演レジュメ「渋沢栄一と鈴木文治・友愛会」と添付資料「渋沢栄一略年譜」「渋沢栄一が関連した会社および社会事業団体」のデジタルデータを、希望者に送付いたします。Eメールで友愛労働歴史館まで申し込んでください。

### 2. 当館企画展「渋沢栄一・鈴木文治」のミニ見学会を実施、11月6日！

友愛労働歴史館は11月6日（水）の講演会「渋沢栄一と鈴木文治」終了後、開催中の企画展「協調会結成100年—渋沢栄一と鈴木文治・友愛会—」のミニ見学会を実施いたしました。



最初に間宮事務局長が①渋沢栄一と鈴木文治の出会いと別れ、②協調会と友愛会の関係、③渋沢栄一・協調会と鈴木文治・友愛会が共有した「人格の尊重」などの見学ポイントについて解説。その後、友愛労働歴史館展示室の見学は行いました。間宮事務局長ら当館担当者が随時、案内・解説を行いました。

### 3 労使関係研究協会が日銀本店・貨幣博物館の見学会を実施、11月22日！

友愛労働歴史館の兄弟組織である労使関係研究協会（宮本礼一会長）は11月22日（金）午後、第85回研修会「日本銀行本店と貨幣博物館の見学会」を開催しました。見学会には労使研の個人会員ら約20名が参加しました。

#### 4. 労働資料協 2019 年度（第 34 回）定期総会・研修会が開かれる、11 月 12～13 日！



労働運動、社会運動関係資料のリユースを行っている社会・労働関係資料センター連絡協議会（労働資料協）の 2019 年度（第 34 回）定期総会・研修会が 11 月 12 日・13 日の 2 日間、大阪市・大阪府立労働センター（エル・おおさか）で開催されました。

12 日（火）は総会の後にエル・ライブラリー（大阪府立労働センター内）を見学し、大阪社会運動顕彰塔建立の経緯と意義等について研修を行いました。13 日（水）には大阪社会運動顕彰塔、大阪府立中央図書館、大阪府立中之島図書館、関西沖縄文庫を見学しました。当館からは安部館員が参加しました。

#### 5. 「自由、公正、友愛」を掲げる民社協会の設立 25 周年記念の集いが開かれる、11 月 21 日！

今年は民社党の解党、民社協会の設立から 25 年になります。民社党の理念「自由、公正、友愛」を継承する民社協会（小林正夫会長。参議院議員、電力総連出身）は 11 月 21 日（木）夜、東京・芝の東京グランドホテルにおいて「民社協会設立 25 周年記念の集い」を開催しました。当歴史館は友愛会ゆかりの社会民衆党（1926 年）から民社党までの資料を収集保管しています。

#### 6. 連載「日本労働会館物語」第 76 回—詩人・加藤一夫とユニテリアン教会・惟一館—！

友愛会館の前身、ユニテリアン教会・惟一館ゆかりの詩人・文学者に加藤一夫（1887. 2. 28～1951. 1. 25）がいます。加藤の作品は 1915（大正 4）年から 1948（昭和 23）年にかけて数多く出版されており、代表作『民衆芸術論』が出版されたのは 100 年前の 1919（大正 8）年です。

しかし、現在、加藤の名前を知る人は少ないようです。「ウィキペディア」は、「和歌山県生まれ、明治学院卒、大正 6 年『土の叫び地の囁き』を刊行し民衆詩派の詩人として文壇に登場する。大正 9 年アナーキズムを掲げる『自由人連盟』などに参加し検挙される。のち転向して宗教に入ることを宣言して農本主義、さらに天皇中心の思想をとるに至る」と記しています。

加藤はまた、ユニテリアン教会機関誌『六合雑誌』に多くの評論を発表しています。当歴史館が復刻したデジタル版『六合雑誌』（SD カード版 12000 円）で、「加藤一夫」を検索すると第 374 号（明治 45 年 3 月）「あこがれの国へ」から同第 462 号（大正 8 年 7 月）の新刊批評「民衆芸術論」まで、47 本の評論が掲載されています。

こうしてみると加藤一夫と宗教の関係は、「ウィキペディア」が記す「大正 9 年アナーキズムを・・・のち転向して宗教に入る」とされる前、明治 45 年頃には既に始まっていたと思われます。加藤一夫とユニテリアン教会の関係はもっと注目されてよいでしょう。

---

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

---

発行：友愛労働歴史館

責任者：徳田 孝蔵

担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

Tel.050-3473-5325

Eメール [yuairekishikan@rodokaikan.org](mailto:yuairekishikan@rodokaikan.org) HP <http://www.yuairekishikan.com>

---

惟一館から 125 年、友愛会から 107 年

---